

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	児童の階層的構成意識に関する基礎的研究
------	---------------------

研究代表者

氏名 細川 太輔	所属 [人文社会科学系 日本語・日本文学研究講座]	職名 講師
-------------	------------------------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名
----	----	----

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

1. 調査方法

(1) 調査対象

東京都の公立小学校の中から区・市を無作為に抽出し、その中から協力していただける学校を選び、調査を依頼した。結果として文京区・北区・渋谷区・台東区・葛飾区・江東区・江戸川区・世田谷区・狛江市・稲城市・立川市・東久留米市・町田市・昭島市・東村山市と8区7市の協力を得た。

(2) 調査問題

それぞれの学校で1年生から6年生まで各学年25名から40名の児童に調査紙に書かれている問題を解いてもらった。問題は以下の2問である。

① 東小学校の太郎君は、東小学校に遊びに来る西小学校の友達に教室に来るまでの道順をリーフレットに書いて伝えることにしました。そこで太郎君は、次のような組み立てメモを作りました。

- 1 げんかんで うわばきにはきかえる    2 二階についたら、右に曲がる  
3 右にある階段で、二階にのぼる        4 右から二つ目の部屋が教室です

次郎君は、太郎君のメモを見て、おかしなところに気づきました。あなたが次郎君だったらどのように太郎君にアドバイスしますか。

※この問題は2と3が逆になっており、順序の違いに気づけるかどうかを尋ねた問題である。

② 花子さんは、レスキュー隊で働いている人について調べ、クラスの友達に紹介するリーフレットを作ることにしました。そこで花子さんは次のような組み立てメモを作りました。

- 1 レスキュー隊とは    2 レスキュー隊でする訓練    ① 壁をのぼる訓練    ② つなをわたる訓練  
③ 体力づくり    ④ 実際に助けに行ったこと    3 感想

幸子さんは、花子さんの組み立てメモを見て、おかしなところに気づきました。あなたが幸子さんだったらどのように花子君にアドバイスしますか。

※この問題は2④が訓練でなく、階層的な構成の間違いに気づけるかどうかを尋ねた問題である。

(3) 採点・集計方法

これらの問題を学生スタッフが二人で採点をし、二人で合意する場合はそのまま、意見が異なる場合は片方が圧力をかけないように話し合って相談して採点するようにした。

2. 調査結果

調査をした結果以下のような正答率は以下の様な結果になった。(％ 小数点以下四捨五入)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
①	20	48	51	53	59	65
②	2	12	21	39	44	55

3. 考察

この結果から以下の様なことが考えられる。順序については2年生で正答率が上がる。順序についての構成意識は2年生かその直前の1年生で指導していくのが良いと考える。また階層的な構成式は4年生で正答率が上がるため、4年生かその直前で指導するのがよいだろう。ただ順序であれば1, 2年生、階層的な構成意識で言えば3, 4年生に実際に指導してみて正答率が上がるかどうか、実際に授業を行って検証してみる必要があると考える。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

東京学芸大学紀要に投稿予定。